

「歴史的風致維持向上計画」で維持向上していく川越市の歴史的風致

川越市は、江戸城北の守りとして、代々有力大名が配されてきました。また、新河岸川舟運により物資の集散地として小江戸と呼ばれるほどの繁栄を築き、明治26年（1893）の大火の後に蔵造りの町並みの形成に至りました。さらに、天海僧正ゆかりの喜多院をはじめとし、多くの社寺を中心として独特の門前の賑わいも創出してきました。近代以降も城下町の景観や構成に大きな変化はなく、現代に至っています。この城下町に住まう町方、職方、在方が一体となって行われる川越祭りは、蔵造りの町並みを絢爛豪華な山車が巡行する、町を挙げての一大イベントであります。これらの、ひと、まち、行事が一体となった歴史的風致は、川越の良好な市街地の環境を形成しています。

「物資の集散」にみる歴史的風致

米穀や織物を中心に発展した商業は、県内初の銀行創設に始まり、現代に至る様々な産業と、蔵造りの町並みや洋館など、それぞれの時代を象徴する歴史的建造物とともに商人町の歴史的風致を形成している。



織物市の賑わい



重要文化財大沢家住宅



蔵造りの町並み



「川越祭り」にみる歴史的風致

川越祭りは、城下町川越の総鎮守である川越氷川神社の例大祭を起源とし、江戸「天下祭」の様式や風流を今に伝える貴重な都市型祭礼として、城下町の繁栄を担った川越の人々により360年の時を超えて守られ、川越独特の特色を加えながら発展した。蔵造りの町並みを中心に、絢爛豪華な山車が辻で相対し、すれ違うさまは、見る者を圧倒する。



重要無形民俗文化財 川越氷川祭の山車行事



川越氷川神社境内



川越氷川神社本殿

「寺社門前の賑わい」にみる歴史的風致

門前界限には、料亭や劇場、さらには、菓子屋横丁など表通りとは異なる歴史的風致を醸しだす。川越のまちの奥行き感、境内の豊富な木々とともに、こうした門前の存在によって成り立っている。



喜多院界隈の町並み



菓子屋横丁



喜多院境内

「川越御家中新古屋敷絵図」